

富良野市
障がい者計画策定のための
団体・事業所等調査
結果報告書

令和 8 年 2 月
富良野市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的及び調査方法等	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査対象及び調査方法、回収結果.....	1
2 本調査報告書の基本的な事項	1
(1) 数値の基本的な取り扱いについて	1
II 調査結果	2
1 回答者について	2
(1) 法人種別.....	2
(2) 主な対象者	2
(3) 利用者の居住地特性.....	3
2 障がい福祉サービスについて	4
(1) 提供している障がい福祉サービスについて	4
① 現在の利用者数	5
② 今後の予定（新設を含む）	6
③ 今後3年後程度の見通し	7
3 富良野市の障がいのある人の状況について	8
(1) 富良野市の障がい者を取り巻く現状	8
(2) 障がい者のニーズに対する対処方法	10
(3) ニーズを踏まえて事業を展開する際の工夫	12
(4) 多機関多職種連携について	14
(5) サービスの質の向上のための取り組み.....	16
(6) 障がい者の就労環境.....	17
(7) 障がい者の生活環境の改善.....	19
(8) 障がい者の権利擁護環境	21
(9) 障がい児の就学・療育・保育・教育環境	23

I 調査の概要

1 調査の目的及び調査方法等

(1) 調査目的

令和9年度を初年度とする新たな「障がい者計画」の策定に向け、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	サービス事業者
調査方法	郵送法
調査時期	令和7年10月
調査地区	富良野市内全域
配布数	26票
有効回収数	15票
有効回収率	57.7%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

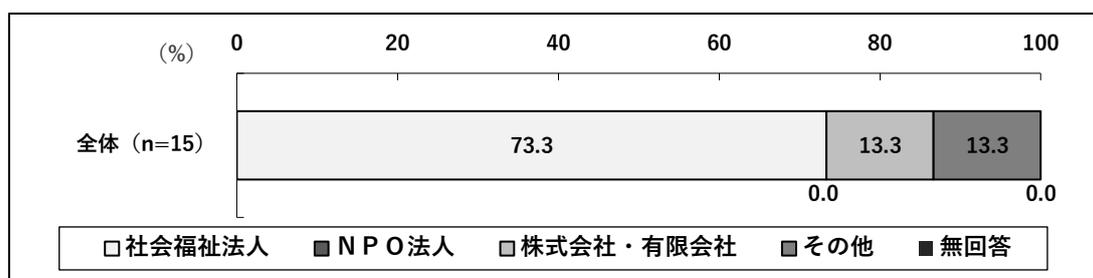
- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 各設問のグラフの母集団の総数は、“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 回答者が複数の選択肢を回答できる設問については、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。
- ④ 文中、グラフ中の選択肢の文言は、一部簡略化しています。

II 調査結果

1 回答者について

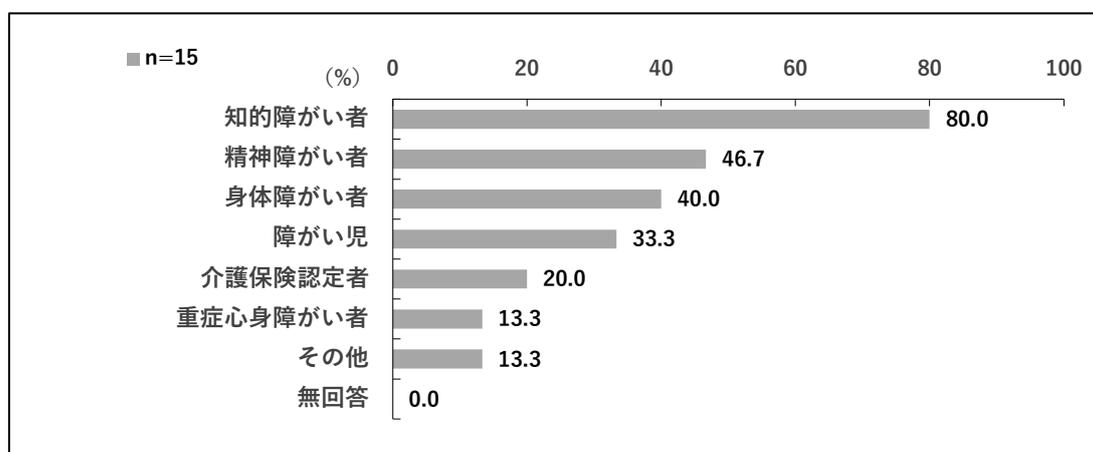
(1) 法人種別

法人種別は、「社会福祉法人」が 73.3%（11 件）、「株式会社・有限会社」・「その他」が同率 13.3%（2 件）となっている。



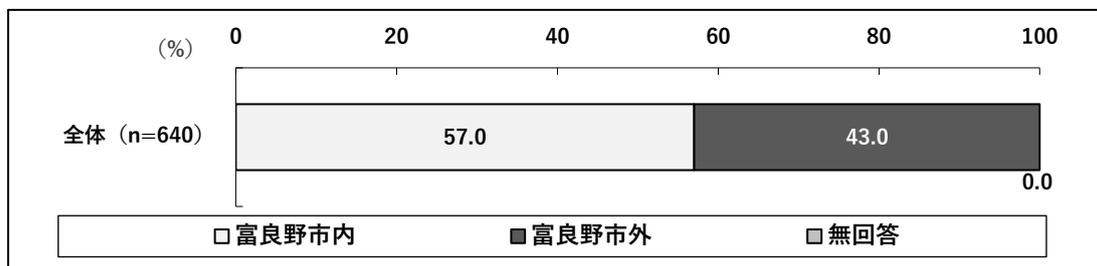
(2) 主な対象者

主な対象者については、「知的障害者」(80.0%・12 件)、「精神障害者」(46.7%・7 件)、「身体障害者」(40.0%・6 件)、「障害児」(33.3%・5 件)、「介護保険認定者」(20.0%・3 件)、「重症心身障害者」(13.3%・2 件)、「その他」(13.3%・2 件)となっている。



(3) 利用者の居住地特性

利用者の居住地特性については、「富良野市内」(57.0%・365人)、「富良野市外」(43.0%・275人)となっている。



■参考：利用者内訳(人)■

	利用者の状況 富良野市内	利用者の状況 富良野市外
関係団体及び事業所利用者人数	13	9
	-	-
	107	144
	47	21
	18	3
	27	2
	21	6
	34	3
	-	-
	-	-
	10	2
	30	80
	7	1
	3	-
48	4	
合計	365	275

2 障がい福祉サービスについて

(1) 提供している障がい福祉サービスについて

【問2は、障がい福祉サービス事業所の方のみお答えください。】

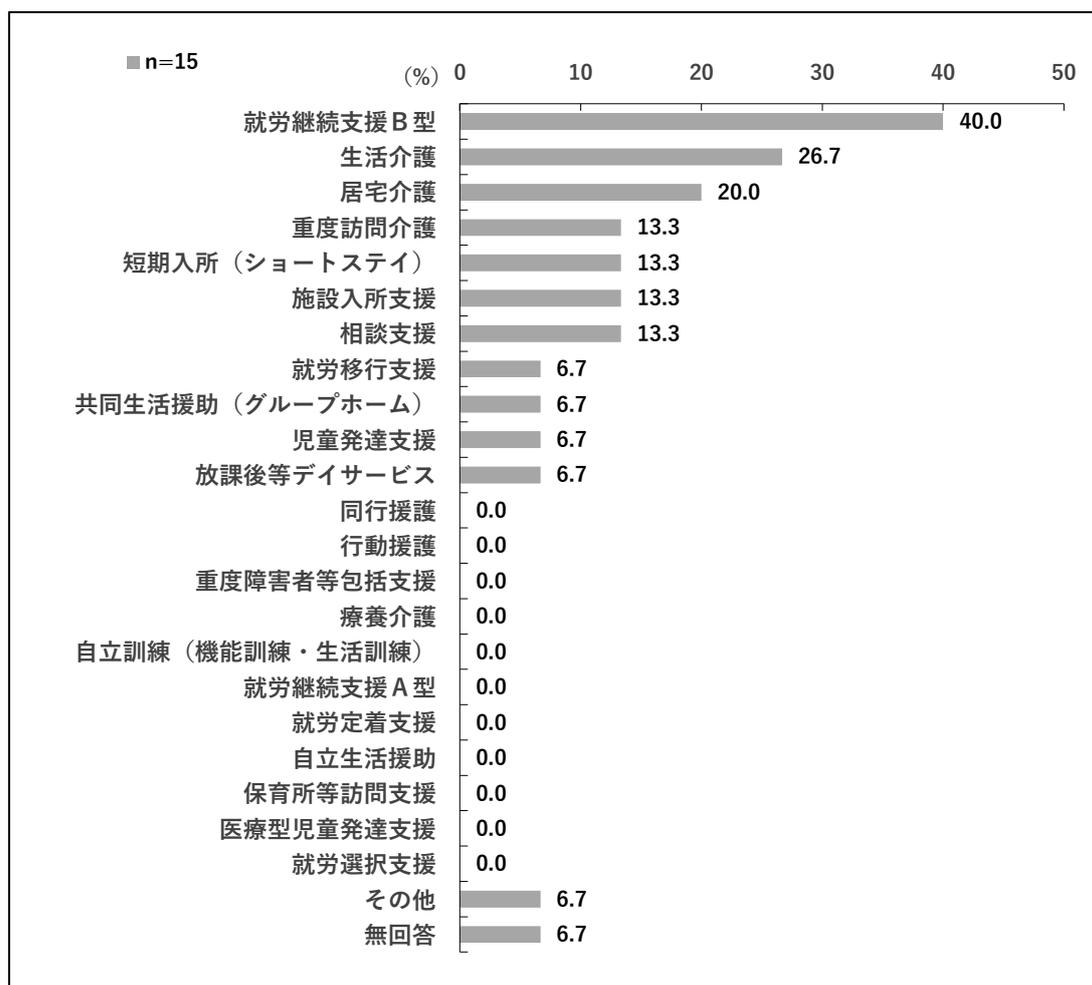
問2 貴事業所で、現在提供している障がい福祉サービスについておたずねします。現在の利用者数（定員）をお知らせください。また、「今後3年後程度の見通し」についてお答えください。

結果概要

「就労継続支援B型」が第1位。「生活介護」、「居宅介護」などが続く。

提供している障がい福祉サービスについては、「就労継続支援B型」（40.0%・6件）が第1位、次いで「生活介護」（26.7%・4件）、「居宅介護」（20.0%・3件）、「重度訪問介護」・「短期入所（ショートステイ）」・「施設入所支援」・「相談支援」（同率 13.3%・2件）、「就労移行支援」・「共同生活援助（グループホーム）」・「児童発達支援」・「放課後等デイサービス」（同率 6.7%・1件）などとなっている。

■ 提供している障がい福祉サービスについて（全体） ■



① 現在の利用者数

障がい福祉サービス	利用者数 (人)	定員 (人)
1. 居宅介護	14	－
2. 重度訪問介護	1	－
3. 同行援護	0	－
4. 行動援護	0	－
5. 重度障害者等包括支援	0	－
6. 短期入所（ショートステイ）	0	4
7. 生活介護	256	280
8. 療養介護	0	0
9. 自立訓練（機能訓練・生活訓練）	0	0
10. 就労移行支援	4	6
11. 就労継続支援 A 型	0	0
12. 就労継続支援 B 型	134	134
13. 共同生活援助（グループホーム）	57	58
14. 就労定着支援	0	0
15. 自立生活援助	0	0
16. 施設入所支援	206	200
17. 相談支援	278	－
18. 児童発達支援	21	10
19. 放課後等デイサービス	29	10
20. 保育所等訪問支援	0	－
21. 医療型児童発達支援	0	－
22. 就労選択支援〈※新制度 R7.10〜〉	0	0
23. その他	0	0

② 今後の予定（新設を含む）

■ 今後の予定（全体） ■



③ 今後3年後程度の見通し

障害福祉サービス	予定利用者数 (人)	予定定員 (人)
1. 居宅介護	△3※	－
2. 重度訪問介護	0	－
3. 同行援護	0	－
4. 行動援護	0	－
5. 重度障害者等包括支援	0	－
6. 短期入所（ショートステイ）	0	6
7. 生活介護	0	0
8. 療養介護	0	0
9. 自立訓練（機能訓練・生活訓練）	0	0
10. 就労移行支援	0	0
11. 就労継続支援A型	0	0
12. 就労継続支援B型	15	20
13. 共同生活援助（グループホーム）	60	60
14. 就労定着支援	0	0
15. 自立生活援助	0	0
16. 施設入所支援	0	0
17. 相談支援	0	－
18. 児童発達支援	0	0
19. 放課後等デイサービス	0	0
20. 保育所等訪問支援	0	－
21. 医療型児童発達支援	0	－
22. 就労選択支援〈※新制度 R7.10〜〉	0	0
23. その他	0	0

※1. 減らす予定の人数

3 富良野市の障がいのある人の状況について

(1) 富良野市の障がい者を取り巻く現状

問3 富良野市内の障がいのある人を取り巻く環境を大まかにとらえた場合、現状、どのように感じているでしょうか。最近5年間くらいの変化などを踏まえ、ご意見・ご感想をご自由にお聞かせください（日常生活や就学・就労、外出や医療など全体を通して）。

富良野市の障がい者を取り巻く現状としては、以下の意見があった。

法人種別	富良野市の障がい者を取り巻く現状
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 就労支援事業所や生活介護事業所など、全体では定員も事業所も増えて、作業や支援を利用者が選べるような機会は増えてきている。事業所内では人手不足もあり、多様なニーズに対応するための作業の数や質を上げていく事に十分追いつかない事もある。特に、生活面（健康、お金、社会的な活動）の支援の必要性は高まってきているが、生活の支援は職員の大きな負担になり、人手不足を加速してしまう。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備（環境）は色々な面ですすんではいると思いますが、まだ対応出来ない部分があると思います。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きく変りはないと感じます。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進み、通所・就労支援だけではなく生活・医療面のサポート需要が増加しています。 ● 親世代の高齢化により「親亡き後」への不安が一層顕在化しています。これに伴い、地域で暮らし続けるための日中活動・生活支援・医療連携の一体的な支援体制の必要性を感じる。 ● 一般就労を希望しても、小規模都市特有の雇用機会の少なさを感じる。 ● 就労継続支援B型では工賃向上の努力をしているものの、物価・人件費の高騰により運営側の負担が増加している。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援として、利用できるサービス情報の提案、調整するが、日中の活動場所（就労系）、居宅介護や移動支援などと提案するサービスが限られてしまう。もう少し有料でも無料でも「あったら良いな」というサービスがあると面白いと思う。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 就労の意欲はみなさんありますが、就労する受け入れ先がない状況。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年で就労支援事業所が増加してきているように思われる。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 車イス対応ができる環境が整っていない。 例) 富良野駅にエレベーターがない為、駅員に頼んで移動する必要がある。障がいのある方が楽しみたい時に、旭川や札幌になかなか出かけられない。 例) 専門的な病院がない。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいのある人への理解が深まっているように感じます。

法人種別	富良野市の障がい者を取り巻く現状
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族支援機能低下傾向が進み、頼れる身寄りのいない障がい者が増えているように感じます。判断能力低下により権利擁護支援に加えて、頼れる身寄りのない方への総合的な権利擁護支援が求められています。また、数十年にわたる長期間のひきこもり事案も散見しており、養護者亡き後のひきこもり事案対応も急務だと思われます。（長期ひきこもり事案では未認定の精神障がい、発達障がいがあると想定し）
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 理解される環境が増えてきていると感じる。

(2) 障がい者のニーズに対する対処方法

問4 貴団体（事業所）で提供しているサービス等に対するニーズ（要望等）についてうかがいます。障がいのある人は、貴団体（事業所）に対して、どのようなことを求めていますか。また、貴団体（事業所）ではニーズに対してどのように対処していますか。



障がい者のニーズに対する対処方法については、以下の意見があった。

法人種別	障がい者のニーズに対する対処方法
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い利用者は、就職（一般事業所へ）や自動車免許の取得などに向けた希望が多い。 ● 年齢高めの利用者は、社会の中で働いて、人の役に立っているという実感を持ちながら生活したい。その中で、生活を安定させたい（工賃を少しでも上げたい）。 ● 全体として、表出はしていないが、生活の支援が必要な方が大きく増えている。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活全般の支援。 ● できるだけ対応する事で安全安心な生活が継続できる様に支援する。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 主に知的障がい者中心に法人として福祉サービスを提供しています。今後もニーズに沿った対応をしていきます。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心して通える環境の確保（居場所としての安定性）→人間関係への不安、気持ちのコントロール、体調面への配慮など。 ● 自分に合った働き方・活動内容の選択（長時間働けない、集中力に波がある、強みを活かしたい、成功体験を積みたい）→作業種の選択肢を増やす、段階的ステップで作業量や時間を調整。 ● 生活面の支援⇒通院同行、服薬管理、家族との調整など「就労以外の困りごと」への支援ニーズが増加。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査等を保護者にして、サービス向上を目指しています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査を保護者にしてサービス向上を目指しています。また、利用者にも意見や要望を聞いています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 随時、要望などがあれば話を聞き対応している。 ● 事業所が対応できるものについては要望を受け入れ、できないことはできないと伝えている。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者さんに希望、要望を聞いたうえで、可能な限り実施している。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心・安全な生活を送れる場の提供を求めていると感じます。また、当事業所としては、日頃より住居への訪問をして住環境の確認および本人様の健康面等の確認を業務として行っています。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で生活することができるように、家事の提供、身体の保清、服装確認。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● お仕事をしながらも楽しい生活が送れるということを希望されている方が多いです。仕事を大切にしながらも、施設行事を充実し楽しい生活が送れるよう配慮しています。通所ではありますが、入居系のサービスも行っているため、年齢を重ねた際の終の住処、次の生活の場への相談を受けています。

法人種別	障がい者のニーズに対する対処方法
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 入所支援では、施設での生活を続けていきたい、長く生活したいという要望がほとんどです。終の住処として考えていらっしゃるので、身体的に問題が生じてでもできる限り施設での生活を維持できるよう支援しています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月1日現在3件の居宅介護支援を提供していますが、ヘルパー人員減により提供体制確保できないため提供休止を予定しています。申し訳ありません。居宅介護支援の他、同法人別事業にて3件中1件の成年後見、3件中2件の財産管理も併せて受任対応しています。法人全体で21件の成年後見、33件の財産管理委任を受任しており、金銭管理及び手続き支援（入退院等支援含）のニーズが高まっていると認識しています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 体調にあわせて作業提供を行う。対処方法、利用者の希望によりそって作業提供をする。体調不良の際は休める環境作りをする。

(3) ニーズを踏まえて事業を展開する際の工夫

問5 事業所の特色を教えてください。利用者のニーズを踏まえて事業を展開する際の工夫についてお答えください。



ニーズを踏まえて事業を展開する際の工夫については、以下の意見があった。

法人種別	ニーズを踏まえて事業を展開する際の工夫
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会の中で必要とされる（社会の中の一員としての）実感をしてもらうための活動を重視。 ● 就職を視野に入れた支援目標（希望者）⇒社会に出た時の生きにくさを減らすための支援。 ● 生活の全部に目を向ける⇒作業中だけでなく、生活全体の中で支援の課題を見る。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● きめこまやかに対応して利用者の支援をする事です。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の年齢・障がい特性・働き方のニーズが多様化してきたことを踏まえ、作業内容や支援方法を一律ではなく“選べる形”にする工夫を行っています。 ● 菓子製造・軽作業・販売活動など複数の作業ラインを設け、体調や集中力に応じて段階的に取り組めるようにしています。 ● また、地域イベントや企業との連携により販売機会を広げ、工賃向上と社会参加の両立を目指しています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数で活動しています。楽しく活動に参加できるよう、内容を考えています。その子によっては、個別対応をしています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数で活動して、職員の目が届くようにしています。その子によっては個別対応しています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者から相談したいと要望があれば、随時対応している。小さなことでも利用者の気持ちや考えを聞き、話し合っている。 ● いろいろな選択肢を提案し、利用者自ら選択してもらう。 ● 年齢が若い障害者には、失敗しても良いのでいろいろな経験を積んでほしいと考え、本人が望めばアルバイトや一人暮らし等の提案やサポートをしている。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 平均工賃が25,000円。水耕栽培のレタスを市内に卸している。市内、商店街などに菊花の納品を行っている。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的に本人様の意向、意思をしっかり受け止め、その中にも助言を入れながら決定していく様にスタッフ全体が共有して行っています。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● その方の能力に応じて、家事援助は一緒に行くことを大切にしています。どうしてもヘルパー＝お手伝いさん、何でもやってくれる人と認識されがちですが、一緒に行くことで少しずつ家事を覚えて下さるケースもあります。もちろん一緒に行くことが困難な方への支援は、ヘルパーがコミュニケーションを大切にしながら心を込めて家事援助を行っています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の個々の想いを大切にし、個別支援の充実を図っている。利用者さんの変化に合わせて、サービス種別の変更をしたり、配属場所を変更したりし、本人のおかれている状況などが変化した場合でも対応し、人生が終わるまで関わること（終の住処としての役割）ができるように対応している。

法人種別	ニーズを踏まえて事業を展開する際の工夫
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護事業の他、権利擁護センター事業、生活困窮者支援事業、生活資金貸付事業等を実施し、また、市内関係機関との連携をもとにし、幅広い利用者ニーズに対応できる総合的な支援体制づくりを目指し事業展開しています。今後は身寄りのない方への支援、ひきこもり世帯に対する支援ニーズが高まっていることを受け、新たな支援展開を検討しています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業の種類を選べる。

(4) 多機関多職種連携について

問6 利用者支援のために必要に応じた多機関多職種連携について教えてください。事業を行う上で今後連携したい関係機関や団体、職種はありますか。また、連携する上での課題や要望、提言などがありましたらあわせてお書きください。



多機関多職種連携については、以下の意見があった。

法人種別	多機関多職種連携について
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャルワーカーや保健所、包括など、生活上の健康維持や近い将来の生活の安定のためには、健康上の課題、生活（家族など）の課題などを複合的に支援が必要になるケースが多い。 ● 移動や通院、買い物などの地域支援のための連携がほしい。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問看護 ● 支援事業所 ● 訪問リハビリ ● 今現在も連携はしていますが、今後いっそう連携出来たらと思います。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 自立支援協議会中心に連携できればと感じます。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育・児童→特別支援学校・小中学校・児童発達支援・放課後等デイ教育委員会 ● 就労・企業連携→地元企業・ハローワーク・地域就労支援機関・障害者雇用企業 ● 相談・地域支援→基幹相談支援センター・相談支援専門員・地域包括支援センター ● 行政・公共→市役所（福祉課・子育て支援課など）
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的に関係機関（幼稚園・保育所）と情報共有をして療育に役立っています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的に関係機関（学校・そらスク）と情報共有をして療育に役立っています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃から他機関多職種連携しているので、特に課題や要望はない。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 同じ社会福祉法人の異業所へ連絡をしてみて、同じようなケースがあるか、また、どのような対応法だったか等をお聞きしている。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社の研修が充実しており、ヘルパーは受けたい時にいくらでも受けることができる為、自己研鑽に励むことが可能です。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の受け入れの際には市の福祉課の方や、養護学校の先生とのやりとりをさせていただくことがあります。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 困難事例等での利用者の受け入れの際は市の福祉課の方と連携を取らせていただいております。入所者のリハビリ関係では、協会病院のPT、STさんにご協力いただき指導を受けています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 他機関連携を促進し、情報と地域支援目標の統一を図ることを目的に市福祉部局、基幹相談支援センター、社協により月1回定例会議を開催していますが、それでも意思統一を図ることは困難な場面があり、多職種連携の難しさを感じています。どのような地域づくりを目指し、そのためにどのように行動するのか、目標と手段の理解統一が必要と考えます。

法人種別	多機関多職種連携について
社会福祉法人	● いままで通りで良いと思う。

(5) サービスの質の向上のための取り組み

【問7は、障がい福祉サービス事業所の方のみお答えください。】

問7 貴事業所では、サービスの質を向上させるために、どのような取り組みを行っていますか。

(例：人材の育成・確保、業務マニュアルの作成や指導体制強化、研修の充実…など)



サービスの質の向上のための取り組みについては、以下の意見があった。

法人種別	サービスの質の向上のための取り組み
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さなミーティングを多く行って、利用者への見立てや支援内容（方針）、具体的な支援について話し合うようにしている。 ● 事務量を減らして、支援に時間や人手を使えるようにしている。
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは人材確保と育成が第一だと思っています。 ● 研修や指導体制の強化も質の向上につながると思います。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人が中心で取り組みを行っています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の支援スキル向上のため、外部研修への参加、障がい特性や対応方法に関する研修会を実施しています。 ● 地域イベント等で社会参加の場を提供。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の育成、研修
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援事業所の管理者兼相談支援専門員1名体制なので、研修などには積極的に参加し、相談支援としての業務に関しての再確認や振り返り気付き等を見直す機会としている。 ● 利用者の緊急時対応や職員自陣の緊急時対応もあるため、業務のスケジュールには少し余裕をもちたいと感じている。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 年に4回法人内研修を行い、サービスの質を向上させるために取り組んでいる。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年、学校（養護）卒の方々の利用も増えているため、時代にそってWi-Fiの設置や、金銭的に余裕がない方への物品の貸し出しを行っています。スタッフについては、定期的な研修を行い、特に虐待については多く研修を行っています。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人施設で研修を年代別に行っています。 ● 福祉施設の協会主催の研修会へ参加しています。 ● 新任職員には、新任向けの研修を行うと同時に、年間職員をつけて職を行います。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 法人施設で研修を年代別に行っています。 ● 福祉施設の協会主催の研修会へ参加しています。 ● 新任職員には、新任向けの研修を行うと同時に、年間職員をつけて職を行います。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の継続に向けて人員確保に努めてきましたが、提供が困難な状況になってしまいました。
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の育成、確保。研修会など取り組んでいるが、職員の確保が難しい。

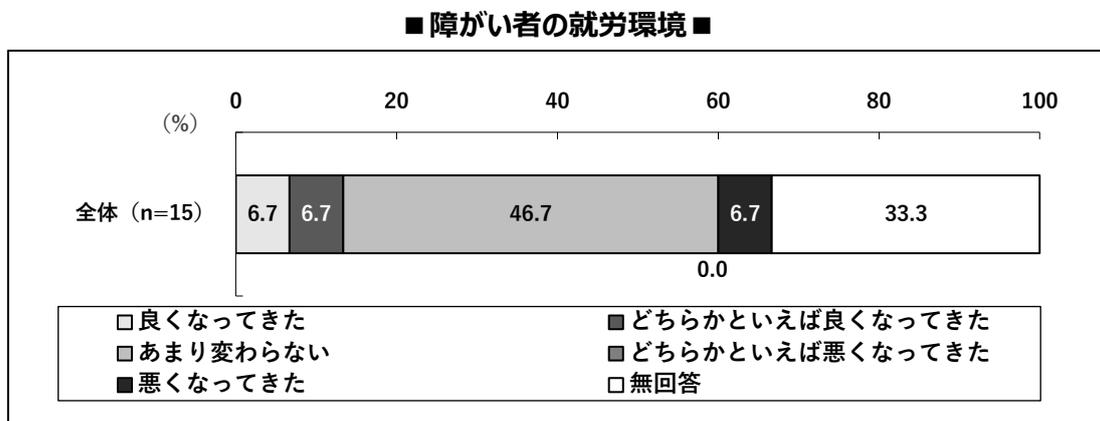
(6) 障がい者の就労環境

問8 障がいのある人の「就労環境」についてうかがいます。最近5年間くらいの期間において、障がいのある人の就労環境は改善されてきたと感じますか。次の選択肢の中から1つに○印をつけて、そのように回答された理由や内容及び課題を、その下の枠内にご記入ください。

結果概要

「あまり変わらない」が最も多い。

障がい者の就労環境については、「あまり変わらない」（46.7%・7件）が最も多く、以下「良くなってきた」・「どちらかといえば良くなってきた」・「悪くなってきた」（同率6.7%・1件）となっている。



理由や内容及び課題については以下の回答があった。

法人種別	「良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	障がい者の特性を理解しながら、就職を受け入れる企業が増えている。

法人種別	「どちらかといえば良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	企業によっては、人手不足のため障害者雇用に力を入れている場所もあるとよく耳にする。

法人種別	「あまり変わらない」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	就労に関する制度や施策は一定の整備が進んでいるものの、地域における実際の就労環境は大きく改善されたとは言えない。 最低賃金の上昇や人件費・物価の高騰により、就労継続支援事業所の運営は厳しさをましており、工賃水準の大幅な向上にはつながっていない。

法人種別	「あまり変わらない」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	全産業にて人手不足が顕著となり、障がい者雇用への関心は高まっていると感じますが、労働環境整備が進んだとまでは言い切れない状況だと認識しています。
社会福祉法人	就労しても続かずにやめてしまう人が多いのは変わらないと感じる。まだ一般職員の理解度はまだまだではないかと思う。

法人種別	「どちらかといえば悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

法人種別	「悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
その他	<p>物価の高騰やその他の生活コストの上昇で、社会全体が余裕がなくなって、障がいへの目が少なくなっている。</p> <p>人手不足感などで効率を求めるような空気が大きい。</p> <p>2、3年は自己責任論のような話や、障がい者は何もしなくても良いという両極の話が多く聞かれて、特性ごとの理解などはあまり進んでいないように感じている。</p>

(7) 障がい者の生活環境の改善

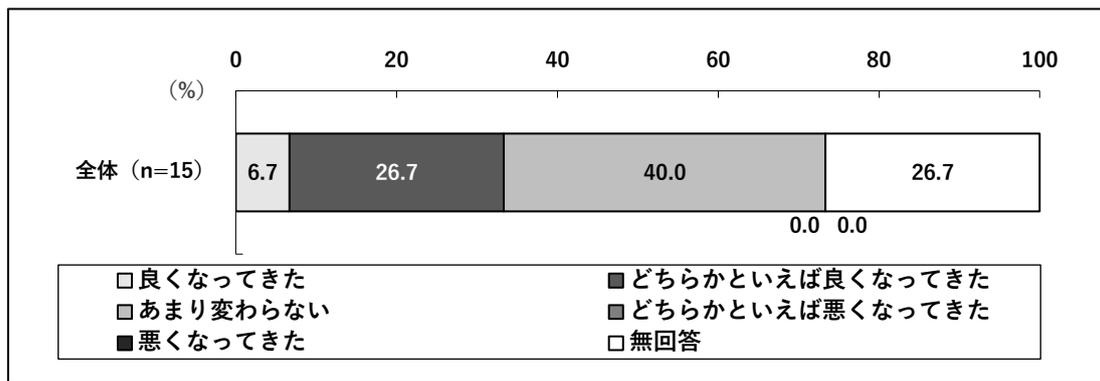
問9 障がいのある人の「生活環境（保健・医療、地域移行・定着、外出、地域生活など）」についてうかがいます。最近5年間くらいの期間において、障がいのある人の生活環境は改善されてきたと感じますか。次の選択肢の中から1つに○印をつけてそのように回答された理由や内容及び課題を、その下の枠内にご記入ください。

結果概要

「あまり変わらない」が最も多い。

障がい者の生活環境の改善については、「あまり変わらない」（40.0%・6件）が最も多く、以下「どちらかといえば良くなってきた」（26.7%・4件）、「良くなってきた」（6.7%・1件）となっている。

■ 障がい者の生活環境の改善（全体） ■



理由や内容及び課題については以下の回答があった。

法人種別	「良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	市民の方が障がいがある方への理解が深まってきており、外出の際に温かく見守っていただいたり、助けていただく場面が増えている。

法人種別	「どちらかといえば良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
その他	生活面や金銭管理などでは、社協の協力が増えて、大きな課題を抱えた人は今までよりも受けられる支援が増えて、生活を向上できた事が多い。作業や活動のみでなく、生活の支援にも目を向けられるようになってきている。
社会福祉法人	権利擁護センター設置以降、成年後見制度が利用促進され、富良野市独自の財産管理支援事業や関係機関連携も進み、一定の支援体制整備は図られていると言えますが、障がい者の生活環境と問われれば、住宅確保や移動環境の問題など課題も多く進んでいるとは言い難いと思います。

法人種別	「あまり変わらない」を選択した理由や内容及び課題
株式会社・ 有限会社	以前と特に変化はないと思います。
社会福祉法人	住まい→G H・単身生活支援の受け皿が不足、選択肢が増えていない。 交通→公共交通の縮小等により、通院・買い物・通所に不便が残る。 医療と福祉の“連携が必要”と言われるが、そもそも連携できる医療資源が少ないため、仕組み以前に現実的な供給力不足が課題である。
社会福祉法人	公共機関を利用できない方々が、買い物や映画を観るなど楽しんで外出をする場がない。例えば、大型のショッピングモールなど。

法人種別	「どちらかといえば悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

法人種別	「悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

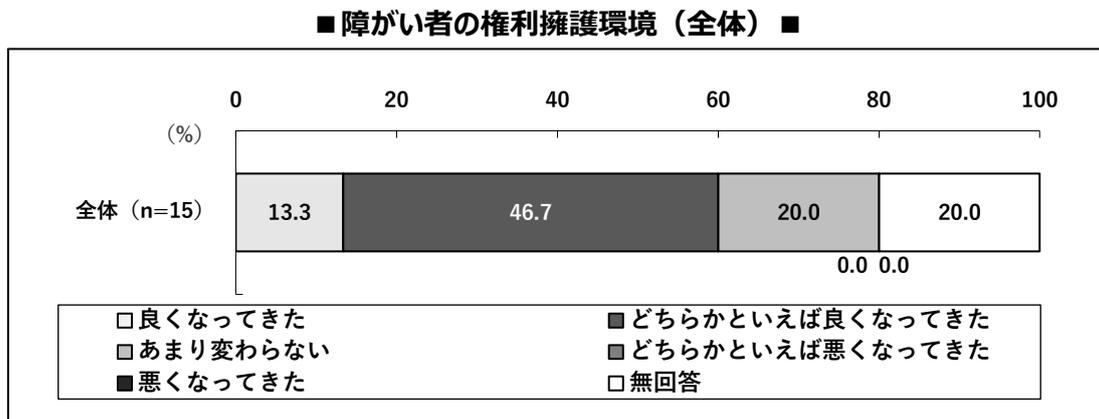
(8) 障がい者の権利擁護環境

問 10 障がいのある人に対する「理解や権利擁護（啓発・交流、意思疎通・虐待・差別など）」についてうかがいます。最近5年間くらいの期間において、障がいのある人の権利擁護環境は改善されてきたと感じますか。次の選択肢の中から1つに○印をつけて、そのように回答された理由や内容及び課題を、その下の枠内にご記入ください。

結果概要

「どちらかといえば良くなってきた」が最も多い。

障がい者の権利擁護環境については、「どちらかといえば良くなってきた」（46.7%・7件）が最も多く、以下「あまり変わらない」（20.0%・3件）、「良くなってきた」（13.3%・2件）となっている。



理由や内容及び課題については以下の回答があった。

法人種別	「良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	施設の職員については研修等がたくさんあるため、職員の意識が高まっている。 市民の方への発信も多くなってきており、良い方向に向かっているように感じます。

法人種別	「どちらかといえば良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
その他	虐待に対する理解が広がってきており、社会的な生きにくさや差別的な言動は少なくなっている。 就労など社会への参加のチャンスは、あまり増えていると感じない。（障がい者の活動自体の機会は増えている）
株式会社・有限会社	各事業所で色々な研修（例えば虐待）がすすんでいると思います。

法人種別	「どちらかといえば良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	差別解消法改正・相談支援体制整備・虐待防止研修が義務化されて、行政・事業所・学校などで権利意識を共有する機会が増え、地域における差別や虐待に対する社会的な感度は以前より高まっている。 本人の意思決定支援が重視されるようになった。 意思決定の部分では、判断能力に課題のある人への支援方法が十分に確立されていない。
社会福祉法人	問8に通ずるが、理解があるからこそ、雇用している企業が増えているのではないのでしょうか。
社会福祉法人	成年後見制度の利用促進状況、各支援法人による財産管理及び手続き支援体制整備状況から一定の権利擁護環境改善は図られていると感じます。 一方で、管理監督体制が不十分なまま不適切に利用者の金銭管理を行う事業所があるなど支援者による虐待の恐れもみられ、事業所に対する監督体制の整備が急がれる状況です。 権利擁護と侵害は表裏一体であり、事業所指導監督の強化は必須と考えます。また、虐待に関して正しく一体的な対応となっていないと感じる事案があり、把握後の対応が正しく統一され、安全の確保、権利侵害からの回復、擁護関係の再構築、再発防止へと迅速に解決できる体制を市が主体となって、他機関連携により作られなければならないと思います。 虐待は障がい者権利侵害の最たるものであり、虐待の対応に地域の権利擁護体制のすべてが集約されると考えます。 権利侵害を許さない富良野市の体制づくりが求められます。
社会福祉法人	言葉などを発信しやすいかんきょうにはなったのではないかと思う。

法人種別	「あまり変わらない」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

法人種別	「どちらかといえば悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

法人種別	「悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

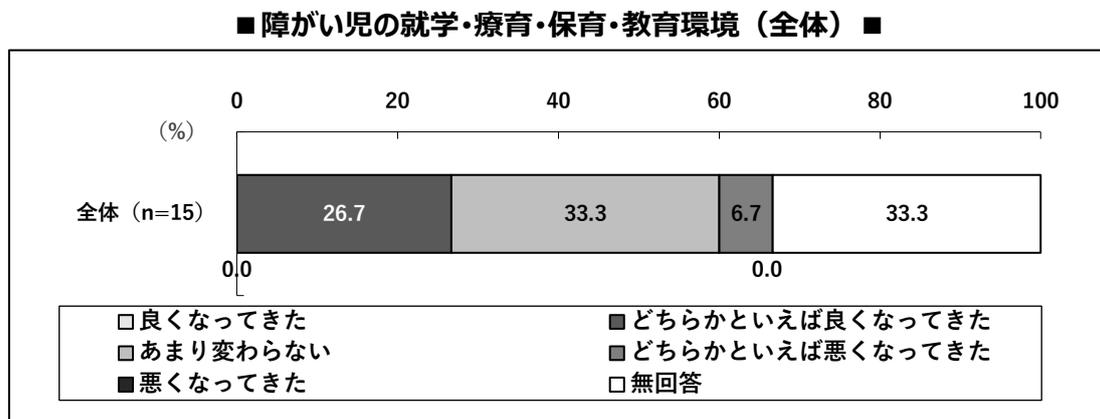
(9) 障がい児の就学・療育・保育・教育環境

問 11 障がい児についてうかがいます。最近5年間くらいの期間において、「障がい児の就学や療育・保育・教育の環境」は改善されてきたと感じますか。次の選択肢の中から1つに○印をつけて、そのように回答された理由や内容及び課題を、その下の枠内にご記入ください。

結果概要

「あまり変わらない」が最も多い。

障がい児の就学・療育・保育・教育環境については、「あまり変わらない」（33.3%・5件）が最も多く、以下「どちらかといえば良くなってきた」（26.7%・4件）、「どちらかといえば悪くなってきた」（6.7%・1件）となっている。



理由や内容及び課題については以下の回答があった。

法人種別	「良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

法人種別	「どちらかといえば良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
その他	生きにくさのある子ども達の、学校や地域での居場所は増えてきている。地域内に養護学校がなく、中学進学時（障がいによっては小学生からは、寄宿舎に住んで親元から離れなければならないケースは多く、今後は、中学・高校での支援体制が進み、インクルーシブ教育が実現できれば、地域支援の向上とともに保護者の就労にもつながると感じている。
社会福祉法人	就学に向けて、事業所で発達検査をしていただいています。その結果も含め、保護者の方が就学に向けて考える材料が多くなってきたと思います。

法人種別	「どちらかといえば良くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	教育の環境について、その子に合わせた教室や内容を考えていると思います。支援級を選択する子も増えてきています。放課後の過ごし方では、他事業所のデイサービスがやれば良いのではないかと思います。
社会福祉法人	障がい児の事業所があるから。 就学前の健診を、もっと内容を濃くしてみてはどうでしょうか？

法人種別	「あまり変わらない」を選択した理由や内容及び課題
社会福祉法人	障害児の就学や療育に関しては、制度的な整備や啓発は進んでいるものの、地域における実際の環境は大きく改善されているとは感じていません。 早期発達支援や療育ニーズは年々増えている一方で、専門職や支援機関の数が限られており、希望する療育を受けられるまでに時間がかかる状況が続いています。また、特別支援学校と地域学校の連携や、就学先の選択における支援体制の整備も十分とは言えない状況と感じます。
社会福祉法人	元の富良野高校の場所はどのようにするのでしょうか。道の判断になるのかもしれませんが、以前の「支援学校」にするという話から全くその後の動きを聞きません。また、「支援学校」にするより「小・中・高一貫の養護学校」にするほうが、メリットがあると思います。 中学校の特学の教員は、養護学校の教員がどのようなことを生徒に提供しているのか見に行ったり、勉強したりしているのか疑問です。"

法人種別	「どちらかといえば悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	

法人種別	「悪くなってきた」を選択した理由や内容及び課題
回答なし	